

OUR VISION

すべての人々が
安全な水と衛生を利用できる世界

190万人

安全な水を利用可能になりました。

300万人

衛生施設を利用可能になりました。

470万人

衛生習慣を促進する活動を行いました。

※2015年4月～2016年3月実績

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン(認定NPO)

〒130-0026 東京都墨田区両国2丁目10-6 ローレンス・ノダ301

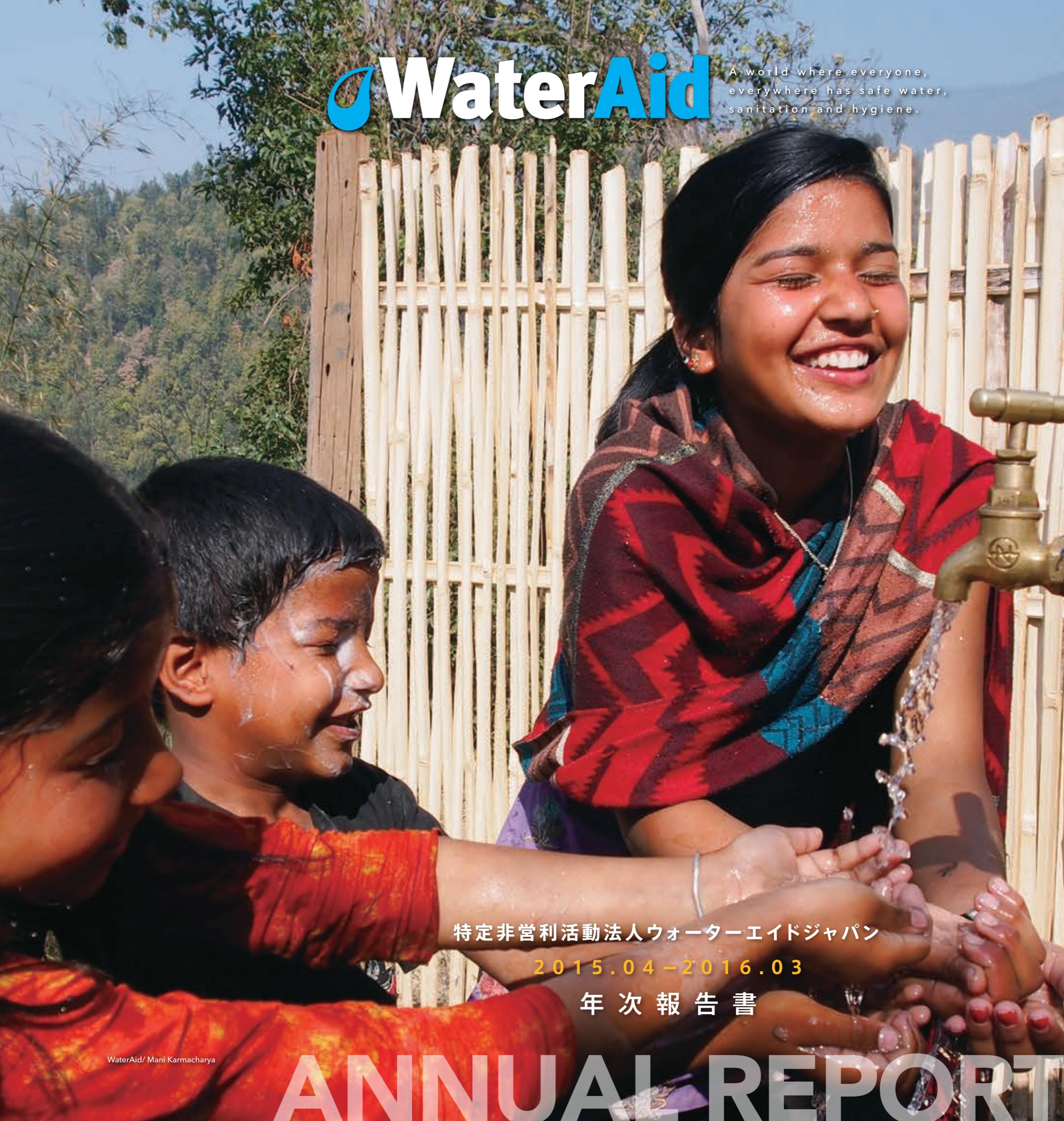
Email: info-japan@wateraid.org

Tel:03-6240-2772/Fax:03-3634-4312

<http://www.wateraid.org/jp>

WaterAid

A world where everyone,
everywhere has safe water,
sanitation and hygiene.



特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン

2015.04 - 2016.03

年次報告書

ANNUAL REPORT



WaterAid

INDEX

目次・WaterAidの概要

01-02

WaterAidの活動国

03-04

エチオピア

05-06

タンザニア

07-08

カンボジア

09-10

インド

11-12

スピーカークラブ／大阪マラソン

13-14

日本の活動

15-16

WaterAidのグローバル戦略

17-18

支えてくださった皆さま

19-20

ウォーターエイドジャパンの概要・会計

21-22

VISION

すべての人々が、安全な水と衛生を利用できる世界

CRISIS

人々の暮らしを支えているのは、安全な水と衛生環境です。しかし世界には、この人間にとて基本的な権利を得られない状態で生活している人が何億人もいます。安全な水と衛生を利用できない人々にとって、貧困と病気の悪循環から抜け出すことは困難です。

APPROACH

現地の人々や政府が主体となり、実用的で長期的に継続していく解決策を、多様な人や機関と協力しながらサポートするのがWaterAidの役割です。地域・社会・文化に根差した方法で問題を解決していきます。効果の上がったプロジェクトについては、WaterAidのみならず現地政府や他機関が、他の地域・コミュニティで応用することができるよう、その手法や情報を積極的に共有しています。

MISSION

世界で最も貧しく社会的に取り残されている人々に安全な水と衛生環境を届けることによって、人々の暮らしを変えていくこと。

HISTORY

1981年 イギリスの水道局によって設立される

1991年 英国チャールズ皇太子が会長に就任

1995年 ストックホルムウォーター・プライズ受賞

2003年 イギリスにおいてチャリティオブザイヤー受賞

2004年 アメリカ、オーストラリアにWaterAidを設立

2006年 「イギリスの最も称賛する慈善団体」に選ばれる

2009年 スウェーデンにWaterAidを設立

2013年 ウォーターエイドジャパン設立

Where we work

WaterAidの活動国

6億5,000万人

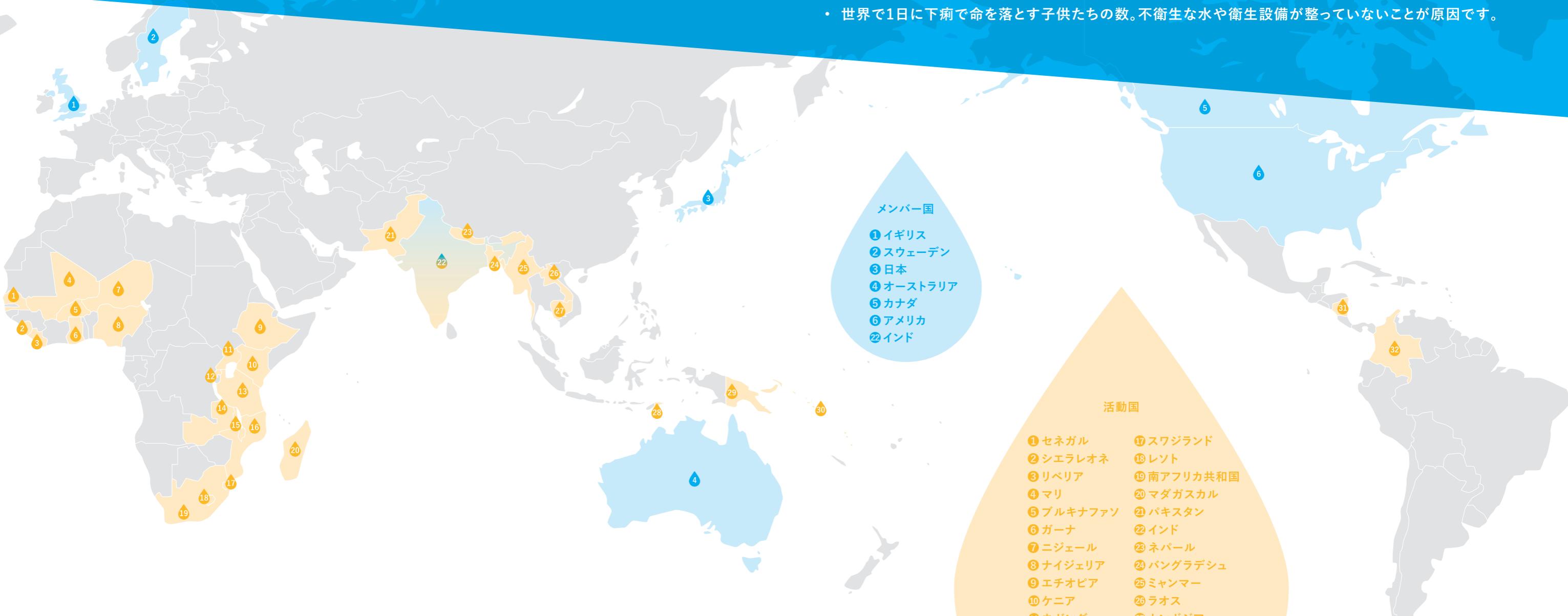
・安全な水を利用できない人の数。世界人口の9%にあたります。

23億人

・十分な衛生設備のない環境で暮らしている人の数。世界人口の約3分の1にあたります。

900人

・世界で1日に下痢で命を落とす子供たちの数。不衛生な水や衛生設備が整っていないことが原因です。



Everyone, everywhere by 2030

WaterAidは、2030年までにすべての人が、すべての場所で、安全で
清潔な水、トイレ、衛生環境を手に入れることを目指して活動しています。

ETHIOPIA エチオピア

持続可能な改善に向けた 複合的なプロジェクト

水・衛生と食料不足の問題に対する包括的な取り組みで、
貧しい村の生活を効果的に改善

2015年度エチオピアでは

💧 **76,381人** が安全な水を…

💧 **82,623人** が衛生設備を…

利用可能になりました！

水くみ場からあふれ出た水を活用して農業を営むドゥゲボさん
(エチオピア・ソロ郡アカマ村)

WaterAid/Yosef Tiruneh



WaterAid/Yosef Tiruneh

広がる格差

近年めざましい経済成長を遂げているエチオピア。都市部の近代化が進む一方で、農村部には安全な水と衛生設備が行き届かず、今なお最低限の生活すらままならない人々が大勢います。暮らしを支える農業も雨水に頼る

しかし、干ばつが発生すると深刻な打撃を受けて食料不足に陥り、日々の食べ物にも困る生活を強いられます。こうした様々な問題が絡み合い、貧困を抜け出す手立てがないまま人々は苦しい暮らしを送っています。

WaterAidの取り組み

複合的な問題を抱える農村の暮らしを効果的に改善するには、水と衛生だけではなく多様な問題に同時に取り組む必要があります。そのため WaterAidでは2013年からの3年間、農作物の増産、安全な水の確保、衛生設備の改善、環境の保護、行政の能力向上を5つの目標とするプロジェクトを南部諸民族州ソロ郡で実施しました。まず安全な水を確保するため、3つの泉を水源とする自然流下方式の給水設備を建設。46kmのパイプラインを敷設して41か所の水くみ場を設置し、コミュニティの人々自身で修理や維持管理を行う委員会も作りました。また、コミュニティの人々が適切な衛生環境の重要性を認識し、改善に

取り組めるようにサポート。ポスターや各種イベントなどで啓発活動を行い、排せつ物を農業肥料として利用できるエコサントトイレの設置も促進しました。さらに、エコサン肥料の作り方や輪作、帯状栽培、マルチング、灌漑、混植など近代的な農業の訓練を提供。牧草を植えることで家畜の餌を確保しつつ、泉の集水域の土壤も保護するなど、環境面にも配慮しました。こうした活動はすべて計画段階から現地の人々と一緒に進め、プロジェクト終了後も現地行政機関のリーダーシップのもと、コミュニティで継続的に運用管理できるようにしました。

プロジェクトの成功を未来へつなげる

その結果、対象地域ではすべての人が安全な水を、99%の人が衛生設備を利用できるようになりました。1日3回食事ができる世帯の割合も28%から68%に増え、農作物を売って現金収入を得られる人も出てきました。夫と5人の子供と暮らすアマレッシュさんはその1人。以前はトウモロコシを年に1度しか収穫できなかったのが、今では野菜を何種類も生産し、それを売った収入で子供の学用品も買えるようになりました。「飲み水も野菜を育てる水も利用できるようになりました」。

もう雨を待たなくてもよくなりました。今は水くみ場で、水をくむ際にポリタンクからあふれ出た水を農業用水として有効利用できるように、畑まで溝を掘っています」とアマレッシュさんは言います。今回のような複合的なプロジェクトはWaterAidとしては比較的新しい試みでしたが、今後もこの経験を活かし、水・衛生と他分野の問題を組み合わせた包括的なアプローチで人々の暮らしを改善するプロジェクトを実施していきます。



TANZANIA タンザニア

新しい命の誕生を、
衛生的な環境で

安全な水を利用できる医療施設で、安心して出産するために

2015年度タンザニアでは

💧 **69,475人** が安全な水を…

「妊婦さんや付き添いの人たちにも気持ちよく過ごしてもらえるようになりました。」と
言う助産師のダニエル・パウロさん（タンザニア、イランバ県）

WaterAid/ Ernest Randriarimalala

💧 **65,633人** が衛生設備を…

利用可能になりました！



「ここで出産するのは不安」

2015年6月、マリア・ジェームスさんは妊娠9か月の大きなお腹を抱えながら、水くみをしていました。滞在しているキオンボイ病院のマタニティハウス（出産待機施設）では、平日の数時間しか水道が使えないため、その間にタライやバケツに水をくんでおかなければならぬのです。週末には付き添いのお母さんに川まで水をくみに行ってもらいます。「水道水は変な味がするので飲み水や料理には

川の水を使っていますが、川の水も汚くて安全かどうか分かりません。」と言うマリアさん。「家の近くの診療所で、もうすぐ出産だから大きな病院に行くようにと言われてここに来ましたが、トイレも水も不衛生なので、ここで出産するのは不安です。」このマタニティハウスでは、大勢の女性が同じ不安を抱えながら何週間も出産の日を待っています。

安全な水がない医療施設

タンザニアのイランバ県に1953年に建てられたキオンボイ病院は、貯水タンクが小さいために、病院本棟も1日1時間しか水道が使えません。半径80kmのエリアをカバーし、毎日25～30件の出産を扱う大きな病院でありながら、給水設備が整っていないために出産時には助産師が手を洗えず、へその緒を切るハサミを

十分に洗浄することもできません。病棟には洗面所やシャワーもなく、お母さんや赤ちゃんは常に感染症の危険にさらされました。キオンボイ病院だけが特別なのではありません。WHOの調査によると、アフリカでは医療施設の42%が安全な水を利用できない状態にあるのです。

新しい命に衛生的なスタートを

こうした問題を解決するため、WaterAidでは2015年11月から2016年2月にかけてイギリスを中心に寄付キャンペーンを展開。医療施設、特に出産現場における水・衛生へのアクセス改善に乗り出しました。キオンボイ病院では現地パートナーらと協力して大規模な改修工事を実施。貯水塔と焼却炉が新設されて病院内のあらゆる場所で安全な水を利用できるようになり、排水管も整備されました。洗面所も必要な場所に設置。建物内外の壁もペンキを塗り直し、もちろんマタニティハウスも見違えるほどきれいになりました。助産師のダニエル・パウロさんは「改修工事で

病院のインフラが整備され、環境が非常に良くなった」と言います。「蛇口をひねればいつでも水が出るし、お湯も使えます。きれいな水で洗濯もできます。そして何より、お母さんや赤ちゃんの感染症を防げるようになりました。」病院の改修後、出産のためにやってきたラヘリ・ダンソンさんは、安全な水を使えると知って驚きました。「きれいな水を使えない病院が多いですからね。水が不衛生だと病気になってしまうので、この病院ならその心配なく出産できると分かって嬉しいです。」とラヘリさんは、衛生的な環境で赤ちゃんを迎える喜びを話してくれました。

CAMBODIA カンボジア

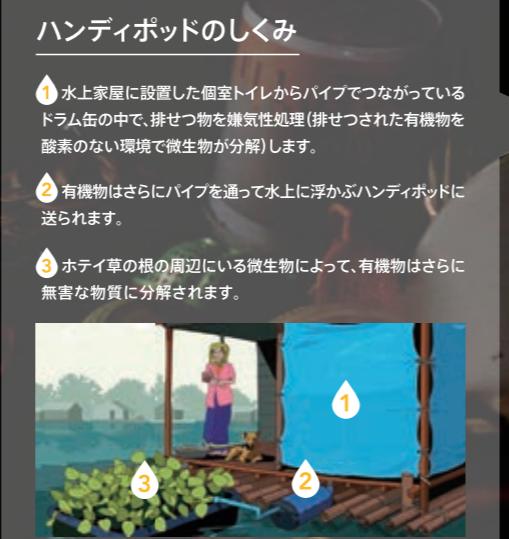
カンボジアの新たな未来へ向けて

2014年に設立されたWaterAidカンボジアは、人々の生活の改善を目指して着実に歩みを進めています

カンボジアでは **380万人** の人々が安全な水を利用できません。



水上家屋で暮らす人々は、洗濯や料理、食器洗いにも湖の水を使っています
(カンボジア・トンレサップ湖)



手洗い習慣促進のためWaterAidの現地パートナーが開発したタンク式手洗い装置「ハッピータップ」(カンボジア・コンポンチャム州)



900万人 を超える人々がトイレを利用できません。

※カンボジアのプロジェクトはプログラムが試験的段階のため支援を届けた人数に関するデータはありません。

WaterAidカンボジアの設立

カンボジア政府は2025年までに水と衛生のユニバーサルアクセスを実現するという大きな目標を掲げています。そのサポートを活動の1つの柱とするWaterAidカンボジアは、2014年に設立されたばかりの新しい組織。スタッフ2名でスタートし、人材の募集、採用、研修を経て、現在は13名が活動しています。このメンバーが、新しい組織体制の整備、資金の調達・管理、行政機関や各方面のパートナーとの

関係構築、調査分析、各種報告、資料作成などを行いながら、まず性別や障害による格差の是正と市民活動の促進に重点を置いて、様々な小規模プログラムを開展。トライ＆エラーから学んだことを四半期ごとに活動に反映し、現地事情の理解を深め、どのような活動が効果のかを見極めて、カンボジアにおける2018年以降の戦略を策定しようとしている段階です。

現在までの成果

そんな中、いくつか成果も見え始めてきました。カンボジア政府が水と衛生に関する国家ガイドラインを策定するにあたり、WaterAidが技術面で協力することになったのです。これは、誰も性別や障害などを理由に取り残さないという「インクルーシブ」な水・衛生ガイドラインであり、

こうしたアプローチに対する政府の理解をWaterAidが促進できた証でもあります。保健医療分野では、保健省が医療施設の水・衛生に対する責任を明確に示したことを受け、WaterAidは医療施設における水と衛生設備、衛生環境を評価するためのツールの作成に協力しています。

ハンディポッド(HandyPod)

そしてもう一つ、現在WaterAidが取り組んでいるのが、ハンディポッドという浄水装置。カンボジアにある東南アジア最大の湖、トンレサップ湖では、10万人以上の人々が水上生活を送っています。家にはトイレがないため、ボートで岸まで行って森の中で用を足すか、水に浮かぶ家の端で水中に排せつするしかありません。食器や衣類を洗うのも同じ湖の水。子供たちが泳いで遊ぶのもこの湖です。WaterAidはこの衛生状態を改善するため、Wetlands Workという社会的企業が作ったハンディポッドをトンレサップ湖で試すことにしました。ハンディポッドは水に浮かぶ小さな庭のようなもので、水上家屋に設置された

トイレとパイプでつながっています。排せつ物はこの装置を通ることで、湖に流しても無害な物質に分解されます。WaterAidはWetlands Workと協力して人々に衛生設備の必要性に対する理解を促すことで、ハンディポッドの需要を高め、その製造販売を地域産業として育てる方法を模索しています。この試みが成功して規模を拡大できれば、衛生面でも経済面でも人々の暮らしを改善できます。WaterAidカンボジアは、まだ未来への道を歩み始めたばかり。決して見通しの良い一本道ではありませんが、カンボジアの新たな未来に向けて着実に前進しています。

INDIA インド

自分たちの手でつかむ、
安全な水のある暮らし

コミュニティ参加型のプロジェクトで「水の安全保障」を実現

2015年度インドでは

703,925人 が安全な水を…

井戸を建設するための石を集めるコミュニティの人々
(インド・オディシャ州)

WaterAid/ Regional Center for Development Cooperation

1,123,180人 が衛生設備を… 利用可能になりました！



水の問題に苦しむ人々

インドには、川や井戸があっても不衛生で、安全な水を利用できずに困っている人が大勢います。工場や家庭の排水、野外排せつなどで汚染され、地域によってはフッ化物やヒ素、鉄などを含んでいるため、水を飲んで健康被害に苦しむ人も少なくありません。地下水位が低下して井戸が枯れてしまったり、壊れた井戸が放置されているところもたくさんあります。この状況を、インド政府は手をこまねいて

見ているわけではありません。何とか改善しようと様々な政策を打ち出し、資金も準備しています。ただ、実際に人々が安全な水を確保できるようにするには、給水設備を作るだけでなく、それを持続的に運用・維持できるしくみを作り、水資源も保全していく必要があります。その技術やノウハウが現地の行政機関やコミュニティにないために、多くの人が安全な水を確保できない状況が続いています。

水の安全保障(Water Security)

そうしたなか、WaterAidはコミュニティと政府の間に立って、水の安全保障(人間の生活と地域の生態系に必要な水の「質」と「量」を持続的に確保すること)実現に向けた「Water Security」プロジェクトを実施。教育や体験実習、職業訓練といった参加型学習の場を通じて地下水や雨水利用、水資源保全などに対する人々の理解を促進するとともに、水理地質学の知識を身に付けた水の専門家をコミュニティ内に育成しています。コミュニティの人々は、

村落レベルの地方自治機構であるグラム・パンチャーヤトと協働し、自分たちで地域の水の状況や課題を調査・分析。地下水の涵養や雨水利用といった解決策を考え、水の安全保障を計画・実施していきます。必要な資金はグラム・パンチャーヤトが責任をもって県・州政府から調達。WaterAidは資金を適切に使って計画を実施するための能力開発や給水設備を維持する技術訓練などもサポートし、政府に対しても資金の調整を求める提言を行っています。

成功事例の拡大

こうした取り組みは、インド東部のオディシャ州ナウバダ県でも実を結んでいます。村には骨フッ素症や下痢などの症状に苦しむ人が多くいましたが、コミュニティではその原因が分かっていませんでした。WaterAidが水質調査を行ったところ、村に1つしかない井戸がフッ素で汚染されていることが判明。WaterAidのサポートのもと、「サンタリー井戸」という種類の井戸であれば安全な水を確保できることを学んだ人々は、自分たちの問題を解決

するために費用と労働力を出し合って井戸を建設しました。2014年に井戸が完成してからは安全な水を利用できるようになり、病気の負荷も目に見えて軽減。給水設備の維持管理や衛生習慣の普及活動も、村の人々で組織する水・衛生委員会が継続して行っています。WaterAidはこうした成功事例を政府と共有し、他のグラム・パンチャーヤトにも、その地域に合ったWater Securityの取り組みを拡大できるよう提言していきます。

ウォーターエイド・スピーカークラブ

もっと知ってもらいたい、水と衛生のこと

世界では、今この瞬間も水と衛生の問題に苦しみ、命の危機にさらされている人が大勢います。この問題を改善するには、日本をはじめ世界中の人々のご理解とご支援が不可欠です。けれども日本に暮らす私たちにとって、安全な水と衛生設備を利用できない状況を身近に感じる機会はなかなかありません。そこでWaterAidでは、世界の水と衛生の状況を日本でもっと多くの人に知ってもらい、考えもらう機会を提供するため、「ウォーターエイド・スピーカークラブ」を立ち上げました。

このスピーカークラブは、高校生以上で「スピーカー講習会」(1日間)を受講された方ならどなたでも、ボランティアの「スピーカー」としてメンバーになります。スピーカーとはつまり、世界が抱える水と衛生の問題を様々な場所で多くの人に伝える役目を担う「語りべ」のこと。WaterAidが主催・出展するイベントやスピーカー自身が企画したイベントで、一般の人を対象に、WaterAidのオリジナル教材と授業案を使って授業を行います。スピーカー講習会では、水と衛生に関する様々な情報・知識を学んだあと、先生役と生徒役に分かれて実際に授業を行い、評価し合いながらスピーカーとしてのスキルを身に付けます。この1日講習会を修了



された方はスピーカーとして認定され、さらに定期的に開催される練習会で授業やファシリテーションのスキルを磨くことができます。

2015年度は2回の講習会を開催し、19名のスピーカーが誕生。WaterAidの仲間としてすでに様々なイベントで活躍しています。WaterAidは今後も日本各地で講習会を開催し、さらにスピーカークラブの活動を充実させていく予定です。



第2回スピーカー講習会受講者 戸田哲生さん

もしかしたら自分にも何かできることがあるかも——。そんな軽い気持ちで参加したスピーカー講習会。見るもの聞くものすべてが新鮮で、すっかりスピーカークラブの魅力に取り付かれてしまいました。ふた回りも年下の大学生、私と同じ会社員など、様々な人たちが真剣に、本気で行動しているのです。気が付いたら私自身も、水・衛生の活動を広めるために

奔走していました。
最初は軽い気持ちでも、本気の人たちと接することで自分もいつの間にか本気になり、同じ目標に向かって行動している——。いま振り返って、これこそ私たちスピーカーの役割だと実感しています。まずは「できることから」、今後も「継続して」活動ていきたいと思っています。

大阪マラソンを走る WaterAidのチャリティランナー

25人のランナーが、走ることで途上国の水と衛生の改善

2011年の初開催以来、毎年約3万人の定員に対して4~5倍の申込みがある大阪マラソン。一般ランナーが参加しやすい大規模な大会として人気を集めています。「みんなでかける虹。」をスローガンに掲げる大阪マラソンは、チャリティ文化の普及を目指すチャリティマラソンとして実施されており、走る人、支える人、応援する人など、大阪マラソンに関わるすべての人が様々な方法でチャリティに参画できるしくみになっています。

その方法のひとつが、チャリティランナーとして走ること。チャリティの寄付先団体として指定されている14団体の中から支援したいと思う1団体を選び、その団体のチャリティランナーとして大阪マラソンを走ることを家族や友人に、あるいはSNSなどを通じて表明します。その決意に共感してくれた方々に寄付というかたちで応援してもらい、寄付金を7万円以上集めて大阪マラソンを走る、というしくみです。

WaterAidは、2014年から大阪マラソンの寄付先団体のひとつに指定されており、毎年チャリティランナーの募集を行っています。エントリーしてくださった方が寄付金を集めて出場し、42.195kmを完走出来事ゴールするところまで、スタッフと

応援団が全力でサポートしています。2015年は25人の方々がWaterAidのチャリティランナーとして走ってくださいました。集めていただいた寄付金が途上国の人々に安全な水と衛生を届けるために役立ったのはもちろんのこと、チャリティランナーの方々がそれぞれの想いを胸に走る姿はWaterAidの大きな力になりました。参加してくださった皆さんに、改めて厚くお礼申し上げます。



2015年大阪マラソンWaterAidチャリティランナー 義永直巳さん

20年前、私が生活改善ボランティアとして活動していたアフリカの村では、食料不足よりも栄養知識や清潔な水がないことが栄養失調の原因となっていました。日本では当たり前にある清潔な水が、途上国では手に入りにくい貴重な資源なのです。大阪マラソンには以前からチャリティランナーとして参加していましたが、

ウォーターエイドジャパンの存在を知ってアフリカの子供たちを思い出し、2015年は寄付先団体にウォーターエイドを選択しました。私がチャリティランナーとして走ることで、チャリティに关心を持つ人、途上国の環境や水の問題に关心を持って協力できる人が1人でも増えてくれるように、これからも活動していきたいと思っています。

日本の活動

水と衛生の問題に取り組む国際NGO、WaterAidの日本法人として、2013年2月に設立されたウォーターエイドジャパン。2015年度も多くの方々の温かいご支援とご協力のもと、様々な活動を実施することができました。

「インドの水・衛生とWaterAidの活動」を開催

WaterAidインドのニーラジ・ジャインCEOが来日し、インドの水・衛生の現状やインドにおけるWaterAidの活動についてお伝えするセミナーを開催しました。

NGO組織強化大賞「担い手育成部門賞」を受賞

「NGO切磋琢磨応援プロジェクト」(JANIC、立正佼成会一食平和基金共同事業)の一環として、NGOの組織強化における優れた取り組みを表彰する「NGO組織強化大賞」。この「担い手育成部門賞」をWaterAidの「スピーカークラブ」が受賞しました。



「国連持続可能な開発サミット」でサイドイベントを開催

9月25日から27日にニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」に合わせてWaterAidはサイドイベントを実施。セリーフ・リベリア大統領を始めとする登壇者が、質の高い保健サービスと水・衛生のアクセスについて議論しました。本サイドイベント開催にあたってウォーターエイドジャパンも協力。日本の外務省より後援を得たほか、外務省の尾池厚之地球規模課題審議官・大使にご登壇いただきました。^①

「トイレットアイデアソン」を開催

2016年の「世界トイレの日」(11月19日)を盛り上げる企画を考えるため、ワークショップ形式のイベント「トイレットアイデアソン*」を日本トイレ研究所と共同で開催しました。^②

*アイデアソン:「アイデア」と「マラソン」を合せた造語。グループでアイデアを出し合い、それをまとめて解決策を共創する形式のイベント。

「世界の水の大切な話」を開催

「世界水の日」(3月22日)とウォーターエイドジャパン設立3周年(2月15日)を記念し、世界の水問題やWaterAidの活動を知っていただくためのイベント「世界の水の大切な話」を開催しました。^③

TICAD VIに向けたNGOネットワークに参加

アフリカ開発会議(TICAD)は、日本政府が主導するアフリカ開発に関する国際会議。TICAD VIは2016年8月にケニアの首都ナairobiで開催されます。市民ネットワーク for TICADは、これに向けて政策提言や国内イベントを開催してTICADを広める活動をするNGOネットワーク。WaterAidは、本ネットワークに参加するNGOとともに、TICADが真にアフリカの市民の役立つものとなるよう働きかけています。

WaterAidのグローバル戦略

2030年までに、安全な水と衛生へのユニバーサルアクセスを実現するため

水・衛生と貧困

安全な水と衛生を利用できること。これは地球上に暮らすすべての人にとって、健康で尊厳ある生活を営むために必要な、基本的な権利です。ところが現在、6億5,000万人の人々は安全な水を利用できず、世界人口の3人に1人は適切なトイレのない生活を送っています。不衛生な環境で下痢性疾患などの病気がまん延し、1日900人の子供たちが命を落としています。水くみに1日何時間もかかるため学校に通えない子供たち。病気の家族の看護や水くみに追われて生産的な生活を送れない女性たち。そして多くの人々が、社会的・経済的格差という壁のために水・衛生の利用機会を得られず、貧困を抜け出すことができないでいます。この悪循環を断ち切るには、すべての人が安全な水・衛生を利用できるようになることが不可欠です。水・衛生へのユニバーサルアクセスが実現しない限り、世界の貧困を終わらせることはできません。



WaterAidのグローバル戦略 2015-2020

こうしたなか、国連は2015年9月、「持続可能な開発目標」を採択。2030年までに格差を是正し、極度の貧困を終わらせることを目指して、世界的な取り組みが開始されました。WaterAidはこの歴史的機会をとらえ、安全な水と衛生へのユニバーサルアクセス実現に向けたグローバル戦略を策定。行政機関、民間企業、市民団体など様々なパートナーやコミュニティの人々と協力しながら、最も効果的な方法で状況を改善するために、4つの戦略目標を設定しています。

4つの戦略目標

公平性: 性別、年齢、障害、出身、経済状況などにかかわらず、あらゆる人が水・衛生の利用機会を公平に得られるように、格差の是正に取り組みます。

統合: 水・衛生の問題を教育、栄養、母子の健康など様々な問題と統合し、各方面と協力して包括的な取り組みを行うことで、持続可能な開発を促進します。

持続可能なサービス: 水・衛生サービスの持続的な提供に必要な、行政機関と公共事業会社の体制・能力の強化をサポートします。

衛生習慣: 安全な水・衛生を利用できるようになることで健康や生活が効果的に改善されるように、衛生習慣改善の働きかけを積極的に行います。

この互いに連動・補完しあう4つの戦略目標を達成するため、WaterAidは意思決定機関への働きかけ、持続的な活動のための体制・能力の向上、パートナーシップ、災害対応力の強化、そして環境への配慮に重点を置いた活動を展開しています。

世界人口の約9%、およそ6億5,000万人が、安全な飲み水のない生活を送っています。¹

世界で3人に1人、約23億人が、適切なトイレのない環境で暮らしています。¹

安全な水・衛生環境が整っていないために、1日900人の子供たちが命を落としています。²

1 WHO/ユニセフ『水と衛生 共同モニタリング・プログラム (JMP)』2014年報告書 2 WASHWatch.org

より効果的な活動に向けて

さらにWaterAidでは、こうした取り組みの実績評価を実施。国連や各国の進捗報告、カバレッジ・データなどを用い、世界レベル、国レベル、活動レベルで実績の評価を行うことで、その結果を体制やプロセスに反映し、より効果的な活動を行うことができるようになります。現在38か国で活動するWaterAidは、今後さらにグローバルな組織としての能力を強化しながら活動を広げ、世界中で変化を促す取り組みを行っていきます。

「水・衛生へのユニバーサルアクセス」
実現に向けて、今こそ前進するとき

持続可能な開発目標

2030年までに極度の貧困を終わらせ、世界中の国々が力を合わせて格差を是正することを目指す「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が、2015年9月、国連で採択されました。WaterAidは、他の市民社会や国際機関などとともにこの歴史的機会を重視し、数年前より水・衛生へのアクセスが1つの目標として採択されるよう働きかけてきました。水・衛生へのユニバーサルアクセスが、国際社会が達成すべき共通の目標となった今、WaterAidも「Everyone, Everywhere 2030」をテーマに、より速やかに大きな変化を実現できるよう尽力しています。



WaterAid/ Ernest Randriarimalala

「クリーン・インディア」キャンペーン

約8億人が適切なトイレのない生活を送っているインドでは、野外排せつも深刻な問題です。衛生環境の悪化や女性への暴力など様々な問題を誘発するだけでなく、経済成長を阻害する要因にもなっています。この問題を解決するため、モディ首相は2019年までに全世界にトイレを普及させるクリーン・インディアキャンペーンを開始しました。この目標を達成するには、毎日約6万1,000基のトイレを作らなければなりません。また、トイレの重要性を行政機関が認識し、十分な資金と人材を投入すると同時に、人々の衛生習慣を変える必要があります。WaterAidはそのための活動を行なながら、スラムなどにトイレを設置する取り組みも地道に続けています。



WaterAid/ Anil Cherukupalli

ウォーターエイドジャパンを 支えてくださった皆さん



2015年度、皆さまのご協力で多くのことを成し遂げることができました。
皆さまの温かいご支援に心から感謝いたします。

WaterAid/ Behailu Shiferaw

BSIグループジャパン株式会社 / gooddo株式会社 / TOTO株式会社 / 青木愛様 /
アサヒビール株式会社 / アビームコンサルティング株式会社 / 株式会社 アールオーエヌ /

株式会社イオンフォレスト / 株式会社良品計画 / 国際ソロプチミスト浜松 / スマートニュース株式会社 /
パナソニック株式会社 / リーバイ・ストラウス ジャパン株式会社 / ヤフー株式会社



元北京オリンピックのシンクロ
ナイズドスイミング日本代表で、
現在はスポーツコメンテーター
として、メディア出演を通じて
シンクロに限らず幅広いスポーツ
に携わり活躍中の青木愛さん。
ご寄付や広報キャンペーンへの
参加等でご協力いただいて
います。

青木愛様



株式会社イオンフォレスト

ザ・ボディショップがクリスマス
ギフトの売り上げの一部を
WaterAidの活動にご寄付
いただきました。クリスマスチャリティ
プロジェクトを実施。全世界の
ザ・ボディショップよりご支援
いただきました。



アビームコンサルティング
株式会社

2013年より毎年ご寄付いただ
いています。その他、社員の皆
さまがウォーターエイド・ス
ピーカークラブや大阪マラソン
に積極的に参加してくださった
り、社内イベントで寄付を募っ
てくださったりと、いろいろな
形でご支援いただいています。



リーバイ・ストラウス
ジャパン株式会社

ジーンズを回収・リメイクして
販売するCSRプログラム
"LEVI'S® FOREVER
BLUE."を通じてご寄付いただ
いたほか、途上国の水くみを
体感できるモバイルコンテンツ
を制作してくださいました。

平成27年度 会計報告

活動計算書 (単位:円)

| 収 入 | |
|-----------|------------|
| 受 取 会 費 | 40,000 |
| 受 取 寄 付 金 | 26,244,566 |
| 受 取 助 成 金 | 2,300,000 |
| 事 業 収 益 | 2,538,499 |
| そ の 他 収 益 | 35,581 |
| 合 計 | 31,158,646 |

| 支 出 | |
|------------|------------|
| 事 業 費 | |
| ・広報・開発教育 | 10,450,302 |
| ・アドボカシー | 2,846,578 |
| ・水・衛生事業/募金 | 12,224,422 |
| 管 理 費 | 3,001,769 |
| 法 人 税 等 | 70,000 |
| 合 計 | 28,593,071 |

* ウォーターエイドジャパンは、1名の監事による業務および会計の内部監査を受けています。

貸借対照表 (単位:円)

| 資 産 の 部 | |
|---------------|-----------|
| 流 動 資 産 | |
| ・ 現 金 預 金 | 4,748,182 |
| ・ 仮 払 金 | 229,231 |
| 固 定 資 産 | |
| ・ ソ フ ト ウ ェ ア | 124,950 |
| ・ 保 証 金 | 840,000 |
| 資 産 合 計 | 5,942,363 |

| 負 債 の 部 | |
|---------------|-----------|
| 流 動 負 債 | |
| ・ 未 払 金 | 927,405 |
| ・ 預 里 金 | 343,688 |
| ・ 未 払 法 人 税 等 | 70,000 |
| 負 債 合 計 | 1,341,093 |

| 正味財産の部 | |
|----------------|-----------|
| 前 期 繰 越 金 正味財産 | 2,035,695 |
| 当 期 正味財産増減額 | 2,565,575 |
| 正 味 財 産 合 計 | 4,601,270 |

| 負債及び正味財産合計 | |
|------------|-----------|
| | 5,942,363 |

ウォーターエイドジャパン 役員

滝沢 智／理事長
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授

赤羽 真紀子／理事
CSRアジア 日本代表

ウォーターエイドジャパンについて

WaterAidは、2012年より日本法人設立の準備を開始。2013年2月に、「ウォーターエイドジャパン」として、東京都より特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けて、法人としての歩みを始めました。WaterAidが日本法人を立ち上げた理由の1つに、日本は水と衛生分野において、世界で最大の援助供与国であることが挙げられます。世界の水・衛生の改善に大きな役割を果たしてきた日本から、水・衛生の重要性について発信していく必要がある—そう考えて日本法人を立ち上げました。

概要

- 法人設立:2013年2月15日
- 認定NPO法人認定:2014年12月19日
- *ウォーターエイドジャパンにご寄付をいただく個人・法人の皆さまは、税制優遇を受けていただくことが可能です。
- 常勤職員数:3名

活動

- 世界の水・衛生問題について関心喚起をするための情報発信
- 世界の水・衛生問題に関するアドボカシー・政策提言
- 途上国における井戸建設、トイレ建設、衛生教育などの水・衛生事業、およびそのための募金活動

ご支援いただく方法

1 毎月の寄付「オアシスギフト」

毎月、一定額を継続してご寄付いただく仕組みです。途上国の人々に安全な水と適切なトイレを届けるための活動を、長期的に支えてください。
<http://www.wateraid.org/jp/donate-japan/oasis-gift>

2 毎日のクリックで募金する

gooddo株式会社のご協力により、右側の赤い「応援する」のクリックがウォーターエイドへのご寄付になります。
<http://gooddo.jp/gd/group/wateraid/>

3 Yahoo! JAPANネット募金

クレジットカードによるご寄付、またはTポイントによるご寄付が可能です。
<http://donation.yahoo.co.jp/detail/5012001/>

5 ボランティア・メンバーになる

ウォーターエイドジャパンは翻訳/イベント/事務作業など、隨時ボランティア・メンバーを募集しています。詳しくはinfo-japan@wateraid.orgまでご連絡ください。

4 スピーカークラブ・メンバーになる

学校やイベントで授業を行うボランティアグループです。不定期で開催している「スピーカー講習会」を受けることでご参加いただけます。詳しくはinfo-japan@wateraid.orgまでお問い合わせください。

橋本 淳司／理事

ジャーナリスト／アクアスフィア代表

高橋 郁／理事

特定非営利活動法人ウォーターエイドジャパン事務局長

和仁 亮裕／監事

モリソン・フォースター外国法事務弁護士事務所／

伊藤 見富法律事務所 弁護士